

平成25年7月21日 参議院議員選挙に向けて

各政党へのエイズ対策に関する公開質問・回答結果

特定非営利活動法人日本 HIV 陽性者ネットワーク・ジャンププラスは、平成 25 年 7 月 8 日、エイズ対策に関する「公開質問状」を各政党に送付致しました。

< 質問内容 >

1. 過去 2 年間において、貴政党において特に HIV/エイズに関して行った取り組み等ありましたら、ぜひともご紹介ください（国内外問わず）。
2. 日本におけるエイズ対策の現状と課題を踏まえ、貴政党では今後のエイズ対策にどのように取り組みたいとお考えでしょうか。

< 回答の有無 >

自由民主党	○
民主党	○
公明党	○
みんなの党	○
社会民主党	○
日本共産党	○

日本維新の会	×
生活の党	×
幸福実現党	○
緑の党	×
新党大地	×
みどりの風	×

※未回答は平成 25 年 7 月 16 日時点

以下、各党の回答内容を掲載致します（到着順）。

民主党

1. 過去 2 年間において、政党において特に HIV/エイズに関して行った取り組み

- 民主党政権下、昨年 1 月に「後天性免疫不全症候群に関する特定感染予防指針」を全面的に改訂した。

(参考)

http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/aids/dl/yoboushishin.pdf

2. 日本におけるエイズ対策の現状と課題を踏まえた、今後のエイズ対策への取り組み

- 上記指針に基づき、予防対策等を徹底し、感染者の健康維持等に向けた公的支援を行う。
-

日本共産党

1. 過去 2 年間において、政党において特に HIV/エイズに関して行った取り組み

- HIV など性感染症の正しい知識を子どもたちに伝える、性教育の普及・発展を、国政でも地方でも求めてきました。日本において、HIV 感染者・エイズ発症者が増え続けている大きな要因に、性交や性感染症にかかわる教育の遅れがあります。日本共産党は、科学的な性教育を敵視する、一部勢力の政治介入に反対し、HIV・梅毒・クラミジアなど性感染症への正しい知識と予防法を周知する、性教育の尊重と充実を要求しています。
- 抗 HIV 治療など、高額で長期にわたる治療にかかる患者負担を抜本的に軽減するため、現行の「高額長期疾病にかかわる高額療養費の支給特例」を大幅に拡大した、「長期療養給付制度（仮称）」の創設を提言しています。
- アメリカ製血液製剤の輸入規制緩和に道をひらき、国際的にも、アメリカの製薬大企業によるエイズ治療薬の特許独占の強化と後発薬の開発制限につながっていく、TPP（環太平洋連携協定）に断固反対し、党派を超えた共同でたたかいをすすめています。

2. 日本におけるエイズ対策の現状と課題を踏まえた、今後のエイズ対策への取り組み

- 性感染症への科学的知識を広める、性教育の普及・発展を求めます。HIV・エイズの危険性を伝え、コンドーム使用などの予防法を周知する、保健行政の取り組みを強化します。
- HIV検査の人員・体制の拡充や地域間格差の解消をすすめ、感染の疑いのある人がすみやかに検査を受け、感染者を早期に発見できる検査・医療体制を構築します。医療従事者のHIVに対する疾病理解・患者理解を徹底し、医療機関での差別的な扱いをなくすなど、HIV陽性者が安心して治療を受けられる医療環境の整備も必要と考えます。
- 男性の同性間接触によるHIV感染の急増に対応し、これらの層に向けた予防啓発・早期発見のための方策、外国人など個別施策層への対策の抜本的強化を求めます。
- HIV感染者・エイズ患者が働きつづけられるよう、職場での偏見をなくす啓発・研修、利用者からの不利益な扱いを防止する指導・監督、プライバシー保護の徹底などをはかることも重要です。
- 国の厚生行政を策定する場への、HIV陽性者の参加をすすめます。
- 国連エイズ特別総会決議にもとづき、国際社会がすすめるエイズ対策への支援強化をはかります。低・中所得国における感染拡大を阻止するため、コンドームの提供や正しい予防法の周知、検査キットの普及などを援助することが必要です。発展途上国に抗レトロウィルス薬の供与をするため、日本の政府・企業の役割発揮が求められます。
- HIVによって孤児になったり、弱い立場におかれた子どもへの医療・教育の保障、HIV陽性率の高い国に共通の、貧困・女性差別・産業荒廃・政府機能喪失を解決する経済協力や民生支援など、人道的支援を抜本的に強化することも重要と考えます。

社会民主党

1. 過去2年間において、政党において特にHIV/エイズに関して行った取り組み

- 特にありません。

2. 日本におけるエイズ対策の現状と課題を踏まえた、今後のエイズ対策への取り組み

- エイズ対策を強化します。
 - ・ エイズに対する正しい知識の普及、検査や相談が受けられる体制など予防対策を徹底します。特に、若者の性教育、在日外国人、海外滞在者などに対して重点的な啓発活動を行います。
 - ・ 国公立病院における患者・感染者の受け入れ体制の強化、医療従事者の陽性、患者・感染者に対するカウンセリング体制など、エイズ患者への医療体制を整備、充実します。

- ・ アジア地域における患者・感染者は急増しています。日本は、ワクチンや根治薬の開発など研究分野をはじめ、国際協力に積極的な役割を果たします。
-

みんなの党

1. 過去2年間において、政党において特に HIV/エイズに関して行った取り組み

- みんなの党では厚生労働政策担当として川田龍平が薬害エイズ被害当事者ならではの取組・活動を行っている。川田は IPU（列国議員連盟）の HIV/エイズに関する助言グループの委員として、世界各国の国際会議、国連 HIV/エイズハイレベル会合等で発言するほか、国内でも各種集会、ワークショップ、フォーラムに参加している。また、松本市エイズ・HIV 等性感染症予防啓発推進協議会委員を務めている。

2. 日本におけるエイズ対策の現状と課題を踏まえた、今後のエイズ対策への取り組み

- 性教育を適切に行い、感染予防すること。
 - MDG's への積極的な貢献をし、国際的に新規感染ゼロ、差別ゼロ、エイズ関連死ゼロに取り組む。
-

公明党

1. 過去2年間において、政党において特に HIV/エイズに関して行った取り組み

- 国際的な連携強化・支援協力を強化するため「世界エイズ・結核・マラリア対策基金」への拠出の推進や、エイズに関する正しい知識の普及啓発・教育、地域における相談・検査体制や医療提供体制の充実等を進めてきました。

2. 日本におけるエイズ対策の現状と課題を踏まえた、今後のエイズ対策への取り組み

- 差別・偏見の解消への取り組みとともに、自治体と連携し、特に青少年などの発生動向の高い層を含めた早期発見・早期治療に向けた検査・相談体制の充実、受検・治療への啓発が重

要と考えます。今後とも、新たな治療薬の開発支援等により、医療提供体制の整備をさらに推進するなど総合的なエイズ対策に取り組んでいきます。

幸福実現党

1. 過去2年間において、政党において特にHIV/エイズに関して行った取り組み

- 特に取り組んではいません。

2. 日本におけるエイズ対策の現状と課題を踏まえた、今後のエイズ対策への取り組み

- エイズ予防の啓蒙。
 - HIV陽性者の方が、差別など受けない社会的な啓蒙と自立して仕事ができる環境づくり。
-

自由民主党

- 昨年（平成24年）1月から施行している「後天性免疫不全症候群に関する特定感染症予防指針」（エイズ予防指針）に基づき、エイズに関する普及啓発、検査・相談体制の充実、医療提供体制の充実に重点的に取り組むとともに、国、地方公共団体、医療関係者や患者団体を含むNPO・NGOなどが連携して、予防や医療に係る総合的対策を展開し、感染症・疾病対策の推進を図ることは重要なことと考えております。今後ともこのような対策を進めて参ります。

以上